



# 5年前に比べ 女性の雇用割合が増加 景況感、 改善するも低迷抜けず

— 農業景況調査 (2019年7月調査) —

●  
農業の景況感とともに、農業における雇用の状況と農業経営に女性がどのように関与しているか調べました。結果を報告します。

## 雇用状況

### 女性が農業経営に大きな存在感

農業において労働力の確保が大きな課題の一つとされています。そこで今回の農業景況調査では、農業における雇用の状況、とりわけ女性の経営への関与について調査しました。

その結果、大規模経営層ほど女性従事者の割合が増えていることが明らかになりました。

また、女性は補助的な仕事ではなく、役員や幹部職員として登用されている割合が多いことも明らかになりました。

かになりました。

経営規模の大きな経営体ほど女性を必要としているのか、女性が活躍している経営体ほど規模が大きくなるのか、注目される場所です。

### 三割超で労働力不足

過去五年間の労働力の増減を、担い手農業者に聞いたところ、「増加した」が最も多く五〇・一%、「変動なし」が四六・二%、「減少した」

は三・七%となりました(図1)。九割以上の経営体で、労働力を維持したか増やしていることになりました。

一方、直近の労働力の状況を聞いたところ、全体の三分の一(三四・〇%)の経営体で「労働力が不足している」と答えました。農業労働力を維持し増やそうとしているにもかかわらず、必要な労働力を確保することが困難な状況にあることがうかがえます。

労働力を増加させるための方法としては、「パートを増やした」が二四・七%と最も多くなりました。耕種農業と畜産を比較すると、耕種農業では「パートを増やした」が二六・九%、畜産では「常雇いを増やした」が二七・八%と最も多くなりました。この違いの背景には、労働力の需要に季節性がある耕種農業と通年雇用がしやすい畜産農業の特色の違いがあるものと考えられます。

売り上げ階層別に見ると、興味深い結果が明らかになりました。売り上げ規模が大きい経営体ほど、労働力は「増加した」の割合が高くなる傾向にあります。

また、増加の方法は、売り上げ規模が大きい経営体ほど「常雇いを増やした」「外国人技能実習生を増

やした」の割合が高くなることわかりました。

### 大規模層ほど女性増やす

農業経営における女性従事者(パート・研修生除く)の割合の変化は、「変動なし」が最も多く七五・八%となりました(図2)。また、「増加した」は一六・九%で「減少した」の七・二%より二倍以上多い結果となりました。女性従事者を増やそうとしている経営体が多い傾向が続いています。

女性従事者の割合の変化を業種別に見ると、キノコ、施設野菜、養豚の順に「増加した」割合が高くなりました。

注目されるのは、売り上げ階層別に見ると、売り上げ規模が大きい経営体ほど「増加した」割合が高くなる傾向にあることです。売り上げ規模一〇〇万円未満層では女性従事者の増加は一・八%ですが、五億円以上層では三二・七%にのぼります。

大規模層ほど女性を必要としているのか、それとも、女性従事者を増やしているから規模拡大が可能になったのか、知りたいところです。

それに直接答えるデータはありませんが、女性の経営への関与を売り上げ規模別に見ると、大規模

層ほど関与している割合が高くなりました。補助的な仕事のために女性を必要としているわけではなさそうです。

### 果樹で営業・販売、六次化

役員や管理職などとして女性が経営に関与している経営体は五二・二%となりました(図3)。二〇一六年に行なった同様の調査(以下、前回調査)の結果は、五三・八%であり、ほぼ同じ水準です。

また、女性が経営に「関与している」割合を耕種と畜産で比較すると、耕種は四八・〇%、畜産は六一・九%です。畜産経営の方が耕種経営に比べて女性が経営に関与している割合が高いことがわかりました。

業種別に見ると、稲作および畑作において「関与している」という割合がとくに低く、キノコおよび養豚経営でとくに高いことが特徴として挙げられます。

女性の経営への関与の内容は、「役員として登用している」が最も多く三七・六%となりました。また売り上げ階層別に見ると、売り上げ規模が大きくなるほど、女性が経営に関与している経営体の割合が高くなる傾向にあることがわかりました。

図3 女性はどんな分野で経営に関与しているのか

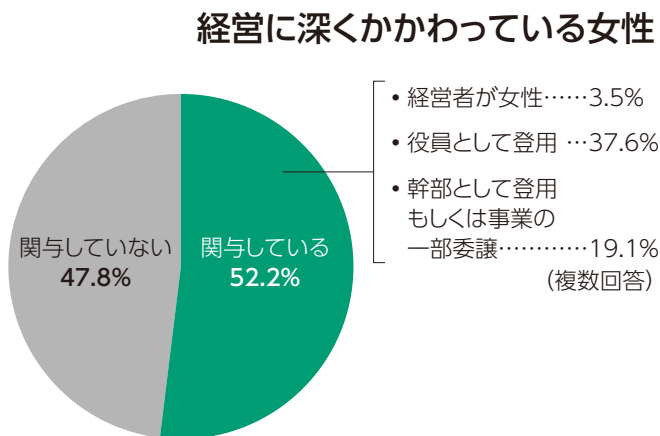


図1 過去5年間の労働力の増減と直近の労働力状況

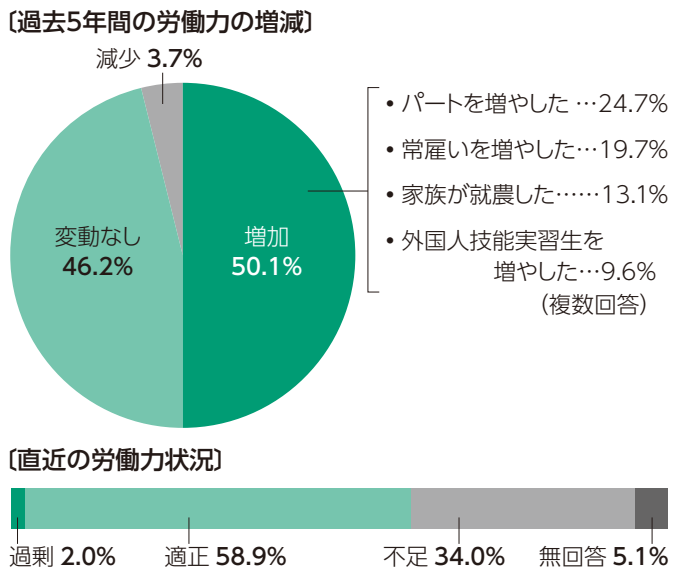
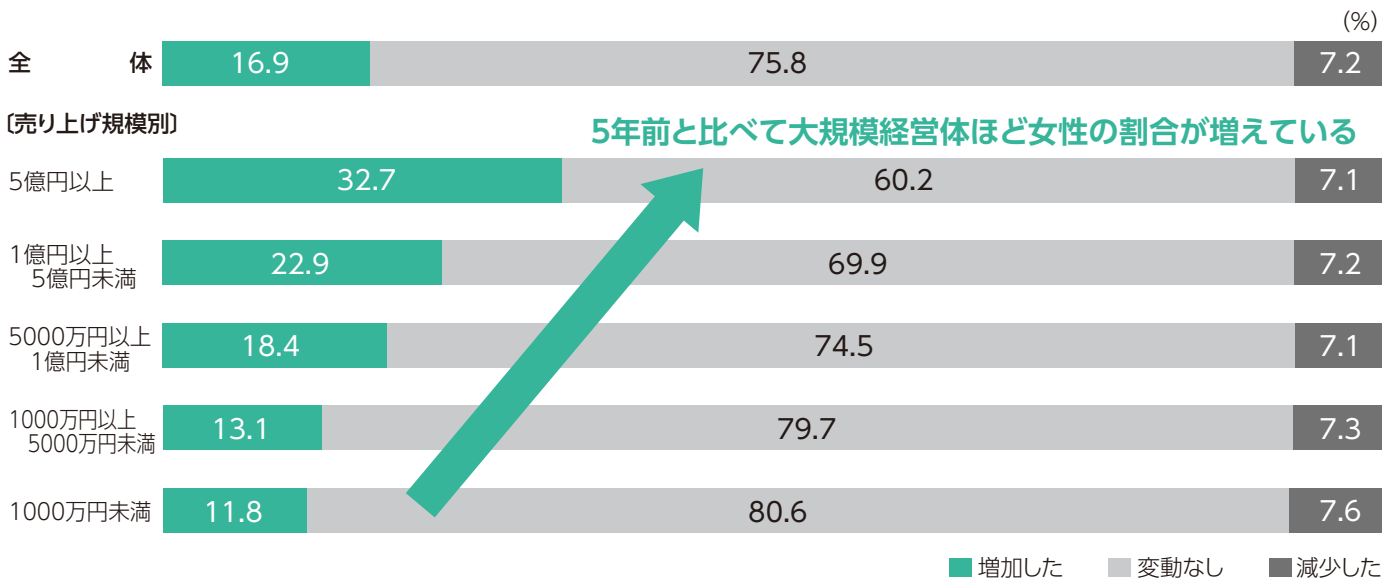


図2 調査先における女性従事者の割合の変化(過去5年間)



女性従事者が担当する分野は、「生産」が最も多く六七・二%となりました。次いで「経営管理」が五三・九%、「営業・販売」が二六・九%、「六次化」が一七・五%と続きました。

畜産と耕種を比較すると、「営業・販売」「六次化」は耕種において女性従事者が関与している割合が高く、とくに果樹経営でその傾向が強くなっています。

個人経営と法人経営では、個人経営で「生産」、法人経営で「経営

管理」「六次化」の割合が高くなりました。

売り上げ階層別に見ると、売り上げ規模が大きいほど「経営管理」の割合が高く、売り上げ規模が小さいほど「生産」「営業・販売」の割合が高くなる傾向があります。

前回調査と比べると、稲作、施設野菜、茶、キノコを中心に、多くの業種で「営業・販売」「経営管理」の分野を女性が担当している割合が上昇しています。

## 景況調査

### 上昇するもプラスに転換せず

二〇一九年上半年期(一～六月)の農業全体の景況感を示す景況DIは▲三・七となり、一八年の▲二・一から七・四ポイント上昇しました(図4)。

販売単価DIは、茶や採卵鶏などを中心に相場が大幅に悪化したことで、二・一から▲一三・三とマイナス値に転落しました。

生産コストDIは、▲三七・一から▲三七・〇と横ばいで、大幅なマイナス値が継続しています。業種

別では、稲作や畑作などの耕種農業で悪化傾向にある一方、酪農や肉用牛などの畜産経営は改善傾向を示しています。

別では、稲作や畑作などの耕種農業で悪化傾向にある一方、酪農や肉用牛などの畜産経営は改善傾向を示しています。

収支DIは▲二〇・一から▲二・八、資金繰りDIは▲四・七から▲四・九となりました。どちらも引き続きマイナス値となっています。

販売単価DI、生産コストDI、収支DI、資金繰りDIは経営状態を示しますが、いずれもマイナ

### 酪農のみ好況目立つ

業種別に景況DIを見ると、酪農は、北海道では二五・〇から二八・〇、都府県では二・五から二・〇となりました。乳価の引き上げでプラス値を維持しています。

養豚は昨年の軟調な価格推移から回復基調となったことで、販売単価DIは▲五五・〇から七・二となり、景況DIは▲二七・二から六・三とプラス値に転換しました。

肉用牛は、相場が一六年まで顕著に上昇していましたが、現在は落ち着いていることから、販売単価DIは二〇・四から▲一四・五へ低下しました。ただし景況DIは四・七から八・三とプラス値を維持しています。

稲作は、北海道では▲五一・八から▲六・八、都府県では▲二〇・七から▲四・三となり、北海道を中心とする前年の作況悪化の反動で景況DIは改善しています。

一方、茶や採卵鶏、露地野菜、施設野菜では景況DIの悪化が顕著となっています。

茶は、前年の価格低下を受けて生産量を減らしたものの、価格の回復にはいたらず、販売単価DIは▲四一・一から▲六五・八と低下

景況DIは▲一四・五から▲五〇・四と大きく低下しています。

採卵鶏は、前年からの価格の低下に歯止めがかからず、販売単価DIは▲六六・七から▲八一・九と低下し、景況DIは▲六一・二から▲七〇・八と引き続き大幅なマイナス値となっています。

また野菜は、主要品目の価格が下落傾向であったことから、露地野菜は▲三・四から▲九・五、施設野菜は▲一・四から▲一七・七と景況DIが低下しています。
















































農業景況DIの一九年年見通しは、上半期実績の▲三・七から横ばいの▲四・三となっています。業種別に見ると、酪農は、都府県で二・〇から二五・四となり堅調な乳価を背景に引き続き高い値を示す見通しです。

一方、一八年から二年連続で平均取引価格が過去最低を更新した茶は、▲五〇・四から▲五七・八、相場の低迷している採卵鶏は▲七〇・八から▲六六・七となり、大幅なマイナス値が続く見込みです。







### 深刻な労働力不足が続く

二〇一九年上半年期の雇用状況DIは▲三三・八となり、一八年の▲三四・七からほぼ横ばいで推移しました。同DIの調査を開始した

図4 農業景況DI天気図

業種	2018年		2019年			
	実績		上半期実績	通年見通し		
農業全体	 ▲11.1	↗	 ▲3.7	→	 ▲4.3	
耕種	稲作 (北海道)	 ▲51.8	↗	 ▲6.8	↘	 ▲11.2
	稲作 (都府県)	 ▲10.7	↗	 ▲4.3	→	 ▲3.5
	畑作	 ▲22.7	↗	 ▲2.2	→	 ▲3.5
	露地野菜	 ▲3.4	↘	 ▲9.5	→	 ▲7.3
	施設野菜	 ▲1.4	↘	 ▲17.7	↗	 ▲7.3
	茶	 ▲14.5	↘	 ▲50.4	↘	 ▲57.8
	果樹	 20.6	↘	 11.1	↘	 7.5
	施設花き	 ▲13.7	↘	 ▲18.9	↗	 ▲12.4
	キノコ	 ▲21.0	↗	 ▲10.0	↗	 ▲2.9
	畜産	酪農 (北海道)	 25.0	↗	 28.0	↘
酪農 (都府県)		 2.5	↗	 21.0	↗	 25.4
肉用牛		 4.7	↗	 8.3	↘	 1.3
養豚		 ▲27.2	↗	 6.3	↗	 11.6
採卵鶏		 ▲61.2	↘	 ▲70.8	↗	 ▲66.7
ブロイラー		 15.9	↘	 12.4	↘	 ▲5.5

[DI値とお天気マークの関係]

 ≤ -50 <  ≤ -20 <  ≤ -5 <  < 5 ≤  < 20 ≤ 

(注) DI値に2.5以上の差異がある場合は上向きまたは下向き矢印。2.4以内の場合は平行矢印。

一五年以降、全業種で大幅なマイナス値が続いており、依然として深刻な労働力不足の状況にあることを示しています。

設備投資の動向は、一九年七月初時点で「二〇一九年に設備投資予定あり」または「実施済み」と回答した割合が五四・九%となり、一九年一月調査（二〇一九年に設備投資予定あり）の四四・三%から一〇・

六ポイント上昇し、引き続き高い水準となっています。

また、一九年に設備投資を「実施済み」または「設備投資予定あり」と回答した者に対して二〇年の設備投資額の増減見通しを聞いたところ、「昨年に比べ増加する」との回答が四七・五%と約半数を占めました。設備投資に意欲的であることがわかります。

今回紹介した内容を含む調査結果についての公表資料は、当公庫ホームページに掲載しています。

「日本公庫 農業景況調査」で検索してください。

(情報企画部 高田 圭介)

※DI(Diffusion Index)とは、アンケートの各項目への回答が、「①良くなった」②変わらない ③悪くなった」から一つ選ぶ形式で、前年と比較して「良くなった」の構成比から「悪くなった」の構成比を差し

し引いた数値です。

図は四捨五入の関係上、合計が一〇〇%にならない場合があります。

【調査概要】

- 調査時点・方法  
二〇一九年七月・郵送調査
- 調査対象  
スーパーL資金／農業改良資金融資金(計二万九二五先)
- 有効回答数  
五三七八先(回収率二八・〇%)

注：本文中にある▲は、マイナスを示します。